
流されて

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
流されて

【コード】
N3817H

【作者名】
神村律子

【あらすじ】
必死に貯めた金で世界一周の船旅に出た男。彼を数奇な運命が待ち受ける。

俺は死に物狂いで働き、とにかくありとあらゆる節約をし、金を貯めた。

そして長年の夢だった豪華客船の世界一周旅行に出かけた。

もちろん、一番安いコースで。それでも数百万円も支払ったが。

豪華客船なのは確かだが、俺の客室は本当にここが客室かと思うような狭さと汚さ。

他の客の大半はセレブで、キラキラした連中ばかり。

そんな中で、ヨレヨレの開襟シャツにジーンズの俺は異質だった。

部屋は汚かったが、食事はセレブ達と同じだ。

但し、大変な疎外感だ。

俺が手をつけた食器は、あからさまに避けられ、酷いものになるとウエイターに交換を要求する奴すらいた。

腹が立ったが、そんなことで争っても仕方がないと思い、何も言わずに食う事に専念した。

夜も更け、俺は部屋に戻り、狭くて寝心地の悪い簡易ベッドに横

になった。

うつらうつらとし始めた時だった。

轟音がした。

俺は仰天して飛び起きた。

小さな丸窓から外を見た。

暗くて何も見えなかったが、船のどこかが爆発したようだ。

何があったのだろうか？

俺は着替えずに寝ていたので、すぐさま廊下に飛び出した。

遠くで女性の悲鳴のような声が聞こえる。

男達の怒鳴り声もだ。

やがて廊下の向こうから黒煙が迫って来た。

やばい！

俺は荷物を取りに戻り、煙と逆の方向に走った。

しかし、そちらもすでに煙と炎で塞がれており、身動きがとれな
い。

俺は少し戻り、狭い階段を駆け上がり、甲板に上がった。

すでにそこは避難して来た連中で溢れていた。

連中の話を聞いていると、どうやら乗員は先に救命ボートで逃げたらしい。

何てことだ！ このままではこの船と運命を共にするしかない！

俺はデッキの端に駆け寄り、救命ボートを探した。

何艘かは他の連中が動かし、海上に浮かんでいた。

置いてきぼりを食わされてたまるか！ 傍らの救命胴衣を着込んだ。

俺は決死のダイブをし、近くにいたボートにしがみついた。

あろうことが、そのボートに乗っていた男共が、俺を突き落とそうとして来る。

俺は抵抗し、何とかボートに乗り込んだ。

しかしそれで終わらなかった。

なおもその「先客」達は俺に攻撃を仕掛けて来た。

俺はそいつらとしばらく揉み合っていたが、突然襲って来た大波にボートが転覆し、俺達は全員海に投げ出された。

どれほどの時が経ったのだろうか？

俺は目を覚ました。

周囲を見渡した限りでは、俺は島に流れ着いたようだ。

しかし、その島は全景が見られる程度の小島で、潮位が上がれば沈んでしまいそうな所だった。

俺の他に誰も流れ着いた者はいない。

あいつらは全員助からなかったのか？

俺は争った相手とはいえ、悲しみがこみ上げ、思わず黙祷した。

「そうか。全員救出にはならなかったか」

船長は肩を落として呟いた。船員の一人が、

「順番を待ち切れずに海に飛び込んだ、三等室の方のみ行方不明のままです」

「そうか」

「時間的に考えて、絶望的かと」

船員の言葉にそこにいたクルー全員が押し黙った。

漂流してから一週間。

未だに助けは来ない。

俺はもう魚は飽きた。

野菜サラダが食いたい……。

ああ。できれば夢であって欲しい……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3817h/>

流されて

2010年10月13日03時01分発行